



長期入院中の統合失調症患者に対する情報技術支援 統合失調症再発予防プログラムの有効性 : 一精神 科病院における予備的研究

著者名	湯浅 好喜
発行年	2016-03-18
URL	http://hdl.handle.net/10470/31566

主論文の要旨

長期入院中の統合失調症患者に対する
情報技術支援統合失調症再発予防プログラムの有効性
：一精神科病院における予備的研究

東京女子医科大学大学院
内科系専攻精神医学分野
(指導：石郷岡純教授)
湯浅 好喜

東京女子医科大学雑誌 第 86 巻 第 E1 号 E86 頁～E90 頁
医学部精神医学講座 石郷岡純教授退任記念特別号に掲載

【要 旨】

近年、情報技術支援統合失調症再発予防プログラム (Relapse prevention program using Information Technology for Schizophrenia: RITS) が開発され、非常に有効であることが報告されている。特に、外来患者に対する訪問看護において患者のアドヒアランスに影響されずに再発予防効果があることが近年報告された。しかしながら、その有効性は、長期に入院加療されている統合失調症に対する治療効果は明らかではなかった。よって、本研究の目的は、長期入院中の統合失調症患者に対する RITS の有効性を評価することであった。我々は精神科病院に長期入院中の統合失調症患者をエントリーし、RITS を用いた治療効果を 12 ヶ月間観察し、RITS 導入前 12 ヶ月の病状のミラーイメージと比較し、効果を検証した。再発のリスクに関しては、治療前 (1.44 ± 0.63 回 / 年) と比較して、RITS 導入後 (0.69 ± 0.80 年 / 回) は低下が認められた ($p=0.0027$)。ベースラインの総 BPRS スコアは 46.94 ± 9.53 と高く、ベースラインから RITS 導入時までの 1 年と RITS 導入後 1 年の総 BPRS スコアの変化率には有意差はなかった。本研究は、再発兆候の検出と、警告状態の間の投薬増加は、再発の早期段階で有効な介入であることを再認し、かつ長期入院中の重症の統合失調症患者に対する RITS の再発予防効果を確認した。